
霊の戦いに関する『ナイロビ 2000 協議会声明』と JEC コンセンサス

2008 年 7 月 1 日 JEC 牧師会

一宮基督教研究所:安黒務

1. Why 『ナイロビ 2000 声明』, Now?

なぜ今、『ナイロビ 2000 声明』なのか。それは今年の夏、関西聖書学院を会場として、日本リバイバル・ミッションのセミナーが開催されることになったからである。そこで、**KBI や JEC とリバイバル・ミッションとの関係**について種々の問い合わせがある。「教職者によって、説明が異なることは良くないので、**JEC 牧師会としての見解**をまとめてはどうか」ということが発端であった。六月の牧師会で意見を集約する機会があった。両者の関係を端的に言えば、『**和して同ぜず**(論語:「君子は人と協調しても、人の意見に同調したり、妥協したりはしない」の意)』ということではないか。ただ霊の戦いのどの点に「和し」、どの点に「**同ぜず**」なのか、そこに教職者の間にも温度差があり、そこが曖昧また不明瞭なので誤解も生まれやすい。主の働きとして「信用問題」もあるので、「**霊の戦い**」問題全般について討議するため JEC 牧師会での発題講演が求められ、その後話し合いの時もたれた。その日は 36 名の牧師たちが参集し、このテーマに対する関心の高さを裏付けた。小生の講演、大田師・福野師のフォロー、質疑応答の後、**現段階での JEC 牧師会としてのスタンスを表明する文書**の必要が提案された。その意図を達成できるかどうかは分からないが、以下に講演要旨を記し、牧師会の総意を整理し提示することで、その責任を果たしたい。

2. What 『ナイロビ 2000 声明』?

発題講演は、**JEC における「霊の戦い」に関する指針**作成に益するとされる『ナイロビ 2000 声明』とは一体何なのか、との問いかけで始められた。それは、「世界伝道のためのローザンヌ委員会」の下、2000 年 8 月にアフリカのケニアの首都、**ナイロビで開催された「霊の戦いに関する協議会」**から出された声明で、発題講演はそれを解説し JEC にあてはめるかたちでなされた。この声明は「**世界伝道と霊の戦いの関連性**」について様々な捉え方がある中、全世界より 60 人の神学と実践の専門家が参集せられ、**聖書的・歴史的・神学的・今日的・地域的・宣教的・戦略的な包括的理解**が「①共通の基盤、②懸念される事柄、③意見に相違のある領域、④さらなる調査・研究を要する事柄」の四つの分野に見事に整理され、声明として出されたものである。この声明は、特定の見方をもつ側につかんとして作成されたものではなく、**論争をもって現われきたる主題**に関し、**福音主義的思索を広げる**ことを意図して作成されたものである。この声明が神の栄光のため「**霊の戦い**」に関する**率直な議論、真剣な熟考、実際的な奉仕**を刺激し、**学び活用される**ことが期待されている。声明は拙訳で翻訳・出版される予定なので、この小さな紙面では、ポイントとなる事柄のみを紹介させていただく。

- ① **共通の基盤-(1)神学的主張**においては、「組織神学」の“**中心的教理**”の枠組みの中に、「天使論」の中の墮落した天使である「**悪魔論**」を“**周辺の教理**”として位置づけて扱うことを、**(2)実践における霊の戦い**においては、a)「歴史神学」の視点から、古代教会より伝道の歴史には「**力の対決**」が同伴していたこと、そして今日の第二・三世界の宣教とに類似性があることから、西欧の「**機械的世界観**」に影響されたあり方がキリスト教の全歴史を代表するものとは言えないこと、b)霊の戦いについては、攻撃的であるよりは、**善をもって悪に打ち勝ち、愛によって人々を勝ち取る「穏やかな侵入」**が大切であり、地方教会と信仰生活の重要性・優先性が主張されている。これらは JEC の福音理解と教会論・宣教論のあり方への示唆である。
- ② **懸念される事柄-(1)霊の戦い**は先進国では世俗化やスピリチュアリティの問題、後進国ではアニミズムやシャーマニズムの問題等、**異なった社会で異なったかたちにおいて表現される**ゆえ、ひとつの社会で有効とされた戦略を別の社会で**無批判に**使用することの危うさが強く警告されている。**(2)人間の行動の代わりに悪霊を非難する**かたちでの**諸霊への行き過ぎた強調**に対して注意が喚起されている。それはクリスチャンの**倫理の基盤を破壊**する危険がある。聖書の教理の中心は、神であり、人間であり、キリストであって、悪霊ではない。**焦点は罪の問題また肉の問題**である。「個人的責任」を強調する包括的な罪論と人格と品性に焦点をあてる包括的な聖化論に注目すべきである。これらは JEC の宣教戦略と人間論・罪論・聖化論のあり方への示唆である。
- ③ **意見に相違のある領域-(1)地域を支配する霊の問題**は、その教えと実践に対し聖書的保証・神学的権威の度合いが**中位の仮説ないし下位の推論**であり、霊の戦いの方法論についての**真理が経験に基づいて立証されるのか、否か**で意見の相違がある。**(2)他の人々がこの研究方法を確信していない中で、ある人々は霊の戦いの一般原則を明らかにする手段として霊の戦いのミニストリーの活発な実験に従事している。**マルコーシュの出版物やリバイバル・ミッションの取り組みは、ここに位置づけられる。JEC 牧師会では、「戦いの祈り」よりも「**とりなしの祈り**」の大切さが、そして「**霊的地図の作成等の地域研究**」も**とりなしの観点において限定的価値を有することが指摘**された。
- ④ **さらなる調査・研究を要する事柄-(1)霊の戦いの理解や神学を定式化することにおいて文化と経験がひとつの役割を演じること、(2)実証できる方法においてミニストリーの経験を評価することを認める基準や方法、(3)「解離性同一性疾患」等について解放のミニストリー従事者と医療・心理学の専門家との対話、(4)人間存在すべてについて語る包括的な聖化の理解等が課題として挙げられており、JEC が今後取り組むべき視界が広がっている。**

3. How JEC ?

以上の経緯、講演、フォロー、質疑応答、討議等を踏まえて、以下に JEC 諸教会を代表

する教職者で構成されている牧師会のコンセンサス(総意)を整理し、「霊の戦い」に関する JEC コンセンサスとして提示する。

「霊の戦い」に関する JEC コンセンサス

(1)JEC は、宣教 50 周年に宣教指針として「ローザンヌ誓約・マニラ宣言」を採択した。(2) その継続協議会の霊の戦いに関するナイロビ 2000 協議会の声明は、「JEC における霊の戦いがいかにあるべきかを照らす指針」とされるのに適切な内容とバランスを有している。(3)JEC は、宣教師と第一世代の教職者から受け継いだ自らのルーツとアイデンティティⁱⁱ、その福音理解ⁱⁱⁱに揺るがない基盤をもち、加えて「霊の戦い」にも注意深く耳を傾ける群れである。(4)JEC ではこの主題においても幅と多様性が尊重されている。しかし指針なき無秩序な群れではない。(5)JEC 牧師会は、JEC 諸教会に「霊の戦いに関するナイロビ 2000 協議会の声明^{iv}」を丁寧に学び、そのガイド・ラインに沿って、「霊の戦い」の様々な教えの良し悪しを取捨選択し、信仰生活と教会形成に知恵深く生かしていくことを推奨する。(6) なお、このコンセンサス(総意)は JEC 諸教会に強制されるものではなく、その取り扱いは JEC の個々の教会の主體的な判断に委ねられる。

結び

以上、限られた紙面なので十分にことばを尽くせないが、先日の牧師会の『和して同ぜず』の内容の輪郭と本質は描写できたのではないか。牧師会はこのテーマに関して詳細な規範や結論を求めたのではない。この主題に関してそれは不可能である。それゆえ、「霊の戦い」に関し、その取り組むべき方向性に限定して JEC における最小限のコンセンサス(総意)を形成しようと努力したのである。もし「JEC は、『霊の戦い』に関してどのようなスタンスなのか?」と尋ねられるなら、この文書のコピーないし、ナイロビ声明の小冊子を片手に「JEC は、『霊の戦い』に関して、『霊の戦いに関するナイロビ 2000 協議会の声明』を丁寧に学び、そのガイド・ラインに沿って、『霊の戦い』の教えの良し悪しを取捨選択し、信仰生活と教会形成に知恵深く生かしていく立場である」と答えることができる。

また、この JEC のスタンスには、「霊の戦い」問題でペンテコステ派から改革派までを含む福音派全体に走った亀裂を癒す力があり、『霊の戦いに関するナイロビ 2000 協議会の声明』にはそのような内容とメッセージと力が存在する。JEC は、そのような旗を高く掲げることで神の栄光を現わすことができるのではないか、そのように確信する。

i 『霊の戦いに関する JEC 牧師会:発題講演、フォロー、質疑応答、討議』 DVD 記録

ii 拙編『JEC の源流と歴史的遺産』、拙講『JEC の歴史神学研究』 DVD 講義録

iii M.J.エリクソン著『キリスト教神学』、拙著『電子メール講義録』、拙講『JEC の組織神学研究』 DVD 講義録

iv 拙訳『霊の戦いに関するナイロビ 2000 協議会声明-“我らを悪より救い出したまえ”』、拙講『悪の問題』『天使論』 DVD 講義録